

Part 3

低コスト体質がゴール

ICTソリューションを上手に活用することで、業務を効率化し、企業はさらに強くなれる。ここまではICTソリューションの利用コストの削減に焦点を当ててきたが、最後に、ICTを活用して低コストでスマートに業務を進める秘訣を紹介しよう。

26 電子看板・監視カメラも無線化できる

モバイルM2Mは従来から、自動販売機の遠隔検量や各種センサー類による遠隔監視などで、業務効率化の手段として用いられてきた。その活用領域は、通信の高速化や料金低廉化を背景にさらに広がっている。

例えば、バスやタクシーなどの車両運行管理を行ったり、無人駐車場の満空・入退状況を遠隔管理する事例がある。目的の第一は業務効率化だが、その情報を利用客にも提供して顧客サービスの向上につなげるケースなども出てきている。

また、モバイルWiMAXやHSPA+などが登場したことで、大容量の映



WiMAXの通信速度を活かせば、ニュースやセール情報、観光情報といったリアルタイム性の高いコンテンツ配信にも対応できる

像データを用いる場面にもM2Mを活用できるようになった。具体的には、デジタルサイネージや監視カメラシステムなどが無線化できる。屋外に設置されることも多いこれらのシステムを、有線ネットワークに比べて低コストかつ迅速に展開できるのだ。

デジタルサイネージについては、有線の場合と同様にニュースや観光情報などのリアルタイムコンテンツの配信も可能になる。イベント会場のように期間限定で設置するケースでも活用しやすくなるはずだ。

監視カメラについては、有線ネットワークの敷設が難しい屋外環境、例えば観光地や学校・通学路、農場や河川といった場所での遠隔モニタリングも容易になる。最近では、人の行動をトレースしたり、不審者の侵入を検知するなどの画像分析技術により、監視業務の自動化も進んでいるが、そうした最新技術も広い範囲で活用できる。

27 「無線WAN」で拠点展開を迅速に

臨時拠点を設置したり、複数の店舗をスピーディーに展開する場合には、固定アクセス回線の開通までにかかる時間と費用が足かせとなる。その場合に活用したいのが、WAN回線に無線ネットワークを利用できるワイヤレスルーターだ。携帯ショップなどで購入した3Gデータ通信カードを挿すだけで、即日データ通信が可能になる。WAN回線用にWiMAXを内蔵したルーターもある。

一般コンシューマ向けには、イー・モバイルの「Pocket WiFi」をはじめとする持ち運び可能な「モバイルWiFiルーター」と呼ばれる製品が普及し始めているが、企業向けにも、暗号化やファイアウォールなどのセキュリティ機能やVoIP対応、運用効率化ツールなどを備えた多様な機種が存在する。

当然、設置後に移設することも簡単に行えるため、移動店舗などを開設する場合にも有効だ。